九州歯科大学第六三回

卒業式式辞

式辞

　本日、ここに、小川洋福岡県知事をはじめ来賓各位、ならびに保護者の皆様のご出席を賜り、第六三回卒業式を挙行できますことは、卒業生はもとより九州歯科大学教職員にとっても大きな慶びであります。ご多用中にもかかわらず、本日、ご臨席を賜りました皆様方に厚く御礼を申し上げます。

　また、本学に入学以来、成長を見守ってこられた保護者の皆様方におかれましては、その歓びは一方ならぬものと拝察申し上げます。教職員を代表して、心よりお祝い申し上げます。

　さて、歯学科六三期生および口腔保健学科二期生の皆さん、卒業おめでとうございます。今日の皆さんは、卒業証書・学位記を手にして、入学時から今日までの思いが去来し、感無量のことと思います。送る立場の我々教職員も、加速度的に多様化する歯科医療の世界で、君たちが溌剌として活躍する姿を思い浮かべ、社会に貢献する学士に育て上げたという安堵感とともに、これからの厳しい

実社会での成功を切に願っています。

平成二四年度からスタートした第二期中期計画においても、九州歯科大学は、大学の理念に「高度な専門性を持った歯科医療人の育成」を掲げ、実践的な歯科医療人の育成教育を推進してきました。さらに、平成二五年から、学部学生ならびに大学院生の教育改革の一環として、グローバルな人材育成のための基盤整備事業を開始し、海外八大学と教育連携協定を締結しました。今後、グローバルな視野を持った歯科医療人育成に拍車をかけていきます。

近年の歯科医学教育においては、患者の立場に立った医療が強く求められています。このようなことに加えて、歯科医療を取り巻く環境が大きく変化しているなかで、当然のことながら、歯科大学には、この変化に呼応した教育改編が求められています。そのようななかで、学修してきた皆さんは、これから先、いかなる状況にあっても、本学での教えを基盤にして、常に高い志と向上心を忘れることなく生涯学習を継続してください。そして、様々な局面で、自ら考えて行動する社会人になることを願っています。

九州歯科大学は、記念すべきことに、昨年、創立百周年を迎えました。これからも設置団体の福岡県のもとで、歯

科医療界を牽引する実践的歯科医療人を育成していくことに変わりはありません。一方、福岡県は、アジアのゲートウエイとして様々な活動を行っています。このような機運のなか、本学も、昨年、海外の八大学と教育連携協定を結び、学生と教員の相互交流を開始しました。今年度は、歯学科の学生がタイのシーナカリンウイロート大学歯学部で研修生活を送り、口腔保健学科の学生が高雄医科大学歯学部で研修を行ってきました。その一方で、タイのシーナカリンウイロート大学の歯学部学生が、本学での短期研修プログラムを受講しました。今後、海外研修事業を充実させるため、新たに九州歯科大学基金を設立し、今年の四月から運用を開始します。いよいよ来年度から九州歯科大学は、Global and Local Academic Collaboration を掲げ、Kyushu Dental University という英語名に相応しい口腔の総合大学を目指します。

今後、すべてのライフステージにおける口腔保健の向上を通じて、国民の全身の健康増進を図るという歯科医療の新たな展開は、我が国のみならず、世界的レベルで求められます。このような認識のもと、諸君も栄えある Kyushu Dental University の卒業生として、これから歯科医療人としてグローバルな道を歩むことを強く望みます。

私が、昨年五月十日の九州歯科大学創立百周年記念式典の式辞で述べた“Think globally、 act locally（世界規模で考え、足元から行動せよ)”という行動規範に関連して、卒業生諸君に対して、広く社会で言われている「鳥の目」と「虫の目」の話しをします。

まず、「鳥の目」です。高いところから全体像を把握する。あるいは、マクロの目で、大所高所から広い視野で物事全体を見つめていくということの例えとして用いられます。次に、「虫の目」です。虫は小さい生き物で、地に面した低い位置にいるからこそ、上からは見えなかったことが見えてくるということから、ミクロの目で足元を見つめ直すという意味で使われます。

君たちは、大学を卒業後、それぞれ時期や内容は異なるかもしれませんが、さまざまな艱難辛苦に遭遇し、戸惑うことがあるかと思います。そのような時、今、私が提示した２つの目を駆使して、自ら生きる道を切り拓いてください。君達には溢れんばかりの知性と時間があります。この大きなアドバンテージを大切にして、無限の可能性に向けて、突き進むことを切望します。

むすびに、小説家司馬遼太郎氏が、「龍馬がゆく」のなかで、龍馬に語らせた「世に生を得るは事を成すにあり」

という言葉を卒業生諸君に送り、いかなる困難に遭遇しても、“Think globally、 act locally”の精神をもって、自分で答えを出す自律した社会人となることを切に願い、私からの式辞と致します。

平成二七年三月一七日

九州歯科大学

学長　西原　達次